資料１

次期まちづくり構想（案）市民説明会　報告

【概要】

開催日	会場	参加者数
令和8年10月8日（木）	三和荘　多目的ホール	14名
令和8年10月13日（火）	市民交流プラザ　市民交流スペース ※オンライン配信有	43名
令和8年10月14日（水）	大江町総合会館　視聴覚室	8名
令和8年10月15日（木）	夜久野町ふれあいプラザ　研修室1・2	28名
合計		**93名**

※時間は19～20時まで

※市の財政状況説明会も併せて開催

【主な質疑応答】

●10月8日　三和

質問・意見	回答
【質問】 ・市も努力しているのはわかるが、今日の説明会に市民が少ないことをどう評価するのか。当事者団体も含め住民側の環境整備をしないと、情報共有や協働が進まず絵に描いた餅になる。	・市だけで進めるには限界があり、市民と一緒に進めることが大前提。 ・条例の「情報の共有」に基づき、広報や広聴をしっかり行い、情報共有を進めていくことが課題である。
【質問】 ・自治基本条例に基づいて策定されているという話だったが、（自治基本条例に限らず）条例などの決まりごとが足かせとなり、スピード感や無駄を生んでいないか。不要な部分を見直す意識はあるか。	・自治基本条例は理念であり足かせにはならないが、規制する条例は行政改革の中で適宜見直していく。
【意見】 ・人口が減っているのに新築住宅が増えている理由を調べることで、市の魅力発見に繋がるのではないか。	・ご意見として承る。
【意見】 ・次期まちづくり構想への意見募集とは、具体的にどのような意見を求めているのか。	・個別の要望などではなく、長期ビジョンや施策分野の内容などについてのご提案やご意見をいただきたい。

●10月13日　交流プラザふくちやま

質問・意見	回答
【質問】 ・医療知識が足りないと感じており積極的に学びたい。そういった思いを持つ人へのヒントや、参加すべき取り組みのヒントはこの構想の中にはあるか。	・構想案の「医療」や「健康づくり」分野に記載の「みんなで取り組むこと」を参考にしてほしい。 ・他にもがん検診の大切さを周囲に伝えることなどもまちづくりへの参加となる。
【質問】 ・①今後の全体的なスケジュールを教えてほしい。 ・②総合計画の義務付けがない中で将来像を作る姿勢は素晴らしい。 ・③計画上の人口フレームはどう設定するのか。	・①2027年度からの5年間計画。パブリックコメント後、11月の審議会答申を経て、12月市議会への提案をめざす。 ・③国立社会保障・人口問題研究所のデータをもとに推計人口を示しているが、実態はさらに減少が激しいため、データを更新しつつ現実を直視し財政基盤も踏まえて考えていく。 ・昨年度、「地域の未来予測」を作成し、2040年市民会議において市民と議論を行った。 ・2040年の将来像を市民と共有し、市民が「幸せを生きる」ということを大切にしながら、逆算して現在のまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。

【質問】 ・高齢化が進む地域で見守りや集まれる場所を作り、看取りなども見据えた取り組みをしたいが、市の協力は得られるか。	・「地域福祉」分野の施策として「見守り等の生活支援の充実」を掲げており、関係機関と連携して伴走支援を行う方向性である。 ・具体的な取り組みの相談をもらえれば、市として支援メニューを探して対応する。
【質問】 ・働き盛りや学生など、若い世代の力を借りて意見を反映させるための方策はどう考えているか。	・「大学・高等学校」分野において、すでに活躍している若者の場を広げ、挑戦を後押しする環境づくりなどを行い、一体的な人材育成を図っていく。

●10月14日　大江　質疑なし

●10月15日　夜久野

質問・意見	回答
【質問】 ・市役所の幹部や職員にこれまでどのような説明をしてきたか。市政と住民感情にギャップがある。 ・自治基本条例の担当部署（地域振興部）は本日参加しているか。組織一丸となって取り組むべき。	・策定にあたり市長公室が主体となり、部長級職員で構成する庁内検討委員会で構想案を検討した。 ・構想策定後は職員に周知徹底し、市民と一緒に取り組む思いで進める。 ・組織改編で現在は市民生活部が担当しており、本日は市民生活部に含まれる夜久野支所職員も参加している。